やってみ！チャレンジ

報告書

計画名：自分たちの学校は自分達で！～掲示物を盛り上げよう～

計画開始日：2021 年 10 月 1 日

計画終了日：2021 年 12 月 24 日

氏名：亀井　孝昭（京都市立山科中学校）

1. 計画内容と目的

（1）計画

生徒自らが，生徒に発信できる仕組みを作り，学校行事や，学年行事，各クラス，部活の様子など，電子掲示板等を生徒自らが活用し，掲示する。

（2）目的

①生徒の自己存在感の向上

②他の生徒を認め合う機会を与えることで共感的人間関係を育成する。

③生徒自らが考え，行動できる自己決定の場を与える。

2. 計画を通じて感じたこと

掲示物の効果は，中学生にとって非常に有意義だと感じている。その理由として，1つは，生徒の頑張っている姿，良い行動を積極的に発信することで，「自分は価値のある存在である」という実感を与えることができ，生徒1人1人の個性，独自性を大切にして生活できるようになる。次に，楽しかった行事の写真や振り返りの感想などの掲示物を通して，生徒同士のコミュニケーションのきっかけを増やし，「人と人」という関係を作り出せるようになる。

最後に，連絡事項である。目まぐるしく毎日の授業や行事，取り組みが行われている中で，生徒から生徒，教員から生徒に確実に連絡するためには非常に重要な役割を果たす。

公立中学校の掲示物の実態として，様々な行事の写真や，大切な連絡事項，生活上の注意点，季節感を出したイラストなどが上げられるが，これらの掲示は教員が主体となって行っている。また，掲示する係も決まっておらず，各教科や担任に掲示するかどうかはゆだねられている現状もある。そのため，優先順位も低くなってしまい，なかなか更新されなかったり，掲示しないまま時間が過ぎてしまうこともある。

そこで，今回は，電子モニターと，PC を各校舎に設定し，生徒自ら掲示物を作成できる環境を整え，生徒が更新するシステムを確立すれば，掲示物の持つ効果を最大限生かすことだけでなく，さらに生徒自身を成長させる貴重な機会につながるのではないかと考えた。

本校には，昨年度まで，各クラスで使用されていたモニターが使われないまま多数保管されており，そのモニターをリユースした。モニターを設置した壁の近くに箱を設置。その中で PC を管理し，HDMI ケーブルでつないだ。

設置の工事と同時に，各クラスの評議員（リーダー）を集め，電子モニターで掲示したいものを考えさせた。〇各クラスの紹介 PV 〇各クラスの写真 〇誕生日の生徒紹介 〇週間ブレイク（クラス対抗で生活習慣を確立する取り組み）の結果を流す 〇毎日の時間割や行事 〇週目標 〇行事の写真 など…。生徒自身から様々な意見が出たが，教員からは否定することなく，生徒に決めさせた。最終的に，

①各行事の写真スライド　②毎日の行事，時間割，連絡事項

③各クラスの休み時間の様子　④部活動の様子

に決まり，評議員が放課後に各写真を撮りに行き，当番制で更新していくことに決定した。

生徒の PC 操作等が心配されたが，幸い今年度から，京都市はギガスクール構想がスタートし，生徒一人一人にタブレットが貸し出され，様々な授業で扱われるようになった。そのため，生徒自身の PC スキルも向上し，生徒自身が教員の指導なしでも更新できるようになっていった。

モニターによる掲示がスタートすると，モニターの前には生徒がたくさんあつまり，自分達の写真や大切な連絡などを見上げている様子が見られた。中には，評議員にこんな掲示もしてほしいと，生徒が生徒に要望している姿も見られた。この取り組みが始まって 2 か月以上たつが，それでも毎日のようにモニターをたくさんの生徒が見上げている。

今回の取り組みにより，生徒は，自分たちで学校をよりよくできている，自分たちで学校を動かしているといった実感を得ることができたと考える。今後はこのモニターを活用した生徒が行う掲示をさらに継続させ，自分達の学校を楽しくするのは自分達でという考え方のさらなる浸透を図るとともに掲示物が生徒に与える効果を存分に生かしていきたいと考えている。

3. 今回の経験を今後どのように生かしていくか

生徒指導の目標は，「自己指導能力の育成」である。その達成のために，生徒指導の三機能がある。本年度，生徒，教員のアンケート分析から，「自己決定をする」「自己決定の場を与える」ことが課題であることが分かっている。

自己決定の場を与えるとは，京都市教育委員会生徒指導課によると“自己決定の場を与えるとは，『自分や自分たちで考えて決めて実行する場を与えること』その決定の根拠は『「自分」も「みんな」も喜ぶかどうか』であり，両者を中心にすえて行動することが求められる。生徒自身で責任が取れる範囲内で認められるものであり，教職員の指導性が大変重要。”

とされている。

まさに，今回，モニターを設置し，生徒自らで掲示できるシステムを確立することができたのは，生徒指導の三機能すべてを活用できる取り組みであり，本校生徒の課題解決の一助となったと考えている。

今回，一枝会の情熱教育支援制度のご支援を得ることができたため，公費で補えない環境整備をすることができた。この支援により，次年度以降も今後も，生徒と一緒にモニターを活用し，生徒が主体的に考えながら，さらによい活動ができるように工夫を重ねていきたい。

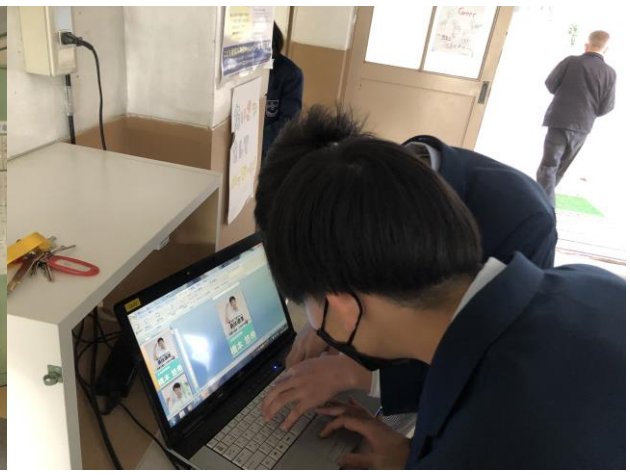
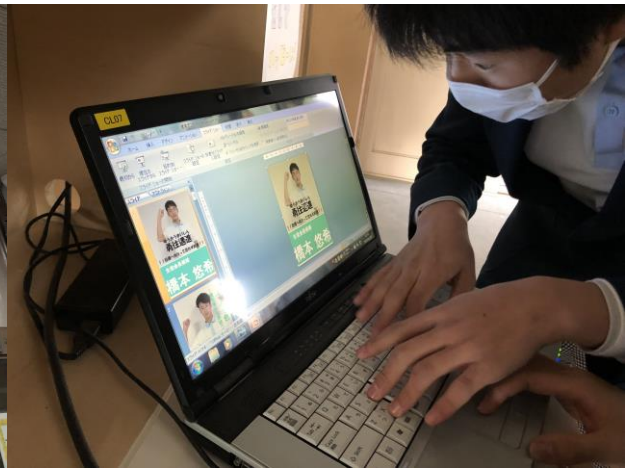
4. 今後本プログラムを希望する方へのアドバイス

公立中学校のでは，生徒からの希望や，教員が取り組みたいことも，予算面で断念することが多い。しかし，情熱教育支援制度は，その教員，生徒共にやってみたい！と強く願う取り組みを予算面でクリアしてくれる。生徒のためにといった目的が明確であれば，積極的にこの制度に申し込んでみてはいかがだろうか。

5. 主な支援金の使途

〇モニター設置料（職員室前，1 年校舎，2 年校舎，3 年校舎の 4 か所）
〇モニターと PC をつなぐケーブル
〇変換アダプタ

6. 設置したモニターと生徒の様子



学年集会
2学期終了にあたり、学年集会を行いました。どの学年も評議員が企画・運営を行いました。3年生の内容は、各クラスからの2学期の反省の発表、先生方からの生活面、学習面、進路、部活についてのお話、そして学年写真を撮影しました。